

第5回SGRAチャイナ・フォーラム in 北京

中国の環境問題と日中民間協力

～北京の水問題を中心に～

日 時：2010年9月15日（水）午後4時～6時

会 場：北京外国語大学 日本学研究センター多目的ホール

主 催： 渥美国際交流奨学財団関口グローバル研究会（SGRA）

協 力： 緑の地球ネットワーク（GEN）

北京外国語大学日本語学科

国際交流基金北京日本文化センター

■ フォーラムの趣旨

日中同時通訳付き。SGRAチャイナ・フォーラムは、日本の民間人による公益活動を、北京をはじめとする中国各地の大学等で紹介するフォーラムを毎年開催しています。5回目の今回は、日本のNPO法人緑の地球ネットワークの高見邦雄事務局長に再度お願いし、北京の水源である山西省大同から見てきた深刻な北京の水問題とその解決のための日中協力の可能性について検討します。高見事務局長のご講演の後、環境問題を克服した日本の経験から学べるものがあるか、パネルディスカッション形式で検討します。日中同時通訳。

■ プログラム

総合司会：宋 剛（北京外国語大学日本語学部専任講師、SGRA 会員）

基調講演：「大同からみる北京の後ろ姿」高見邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長）

パネルディスカッション：

司会進行：朴 貞姫（北京語言大学日本語学部教授、SGRA 会員）

パネリスト：

高見邦雄

張 昌玉（中国人民大学外国語大学副教授）

汪 敏（苗東連合規画設計顧問有限公司高級工程師）

■ 略歴

高見 邦雄（たかみ・くにお）TAKAMI Kunio

認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク事務局長

1948 年鳥取県の農家に生まれる。東京大学中退。日中民間交流に従事したあと、1992 年緑の地球ネットワークの設立に参加し、大同プロジェクトを担当。1994 年から事務局長。毎年 100～120 日、大同に滞在している。友誼奨（2001 年、中国政府）、大同市榮譽市民（2006 年、大同市政府）など受賞。中文の著書に『雁棲塞北～来自黄土高原的報告』（李建華・王黎傑訳、国際文化出版公司、2005 年）がある。

緑の地球ネットワークは 1992 年以來、山西省大同市の農村で緑化協力を継続している。大同市は北京の西 300km ほどのところにあり、北京の水源、風砂の吹き出し口でもある。そこで深刻な沙漠化と水危機が進行している。「ゼロからの出発」とよくいうが、歴史問題をかかえた大同ではマイナスからのスタートだった。初期は失敗つづきだったが、その後、日本側の専門家や中国のベテラン技術者の参加をえて、だんだんと軌道に乗ってきた。協力の双方も失敗と苦勞を通じ、お互いを理解し、信頼しあうようになってきた。いまでは「国際協力の貴重な成功例」とまで評価されるようになっている。

張 昌玉

南開大学日本語学部 文学学士。東京都立大学国文学研究科 文学修士。東京都立大学国文学研究科 博士課程。主要研究領域：日本語教育、文化思想。

主要研究成果：「試析日本文化思想的變遷」「淺淡日本人的天命論」「淺淡日本的忍文化」「淺淡口訳技巧」「牧口常三郎与『人生地理学』」「国外日語教育簡況」等

汪 敏

山東農業大学園林專業畢業。北京林業大学園林植物專業修士。中国科学院生態環境研究中心生態學專業博士。

主要著書：「生態人居小区水環境的生態工程・城市環境与城市生態」（2003）「生態住区藍色空間生態工程的原則和策略『複合生態与循環經濟』」（2003）「生態工程研究進展、中国人口、資源与環境」（2004）等。

■ SGR Aとは

SGR Aは、世界各国から渡日し長い留學生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGR Aは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGR Aの基本的な目標です。